

4 友達とおしゃべりをする

POINT 1 友達にどう話しかけますか。



POINT 1 の目的は、自分から会話を始めるための表現を確認することです。

① 直美が先に来ているとき

〔表現例〕 「早かったね。」
「待たせて、ごめん。」
「待った？」

② あなたが先に来ているとき

〔表現例〕 「直美、こっち、こっち。」
「ここにいるよ。」

③ 直美が他の友達といっしょに座っているとき

〔表現例〕 「ここに座るね。」
「いた、いた。」

- 学習者に具体的な友達、場所を思い浮かべさせ、①～③の状況に合った自分自身の言い方を考えさせてください。
- ①も②も学習者のほうから積極的に声をかけるという目的で作っています。実際には、学習者が①や②の直美の立場になることもあります。直美の立場だったらどのように答えるかを他の学習者や教師が答えてみるのもよいでしょう。
- この教材では関東圏の大学に通う学生という設定で、会話例が書いてあります。授業では、学習者の年齢や住んでいる地域に合わせて、学習者が実際に使える表現を紹介してください。その土地の言葉を知っていることで相手との関係が近く感じられることもあるので、授業でも紹介してください。

練習1 おしゃべり始めるための話題を考えましょう。

付属 CD-ROM 収録の『れんしゅうシート』におしゃべり始めるきっかけに使えるような話題を書かせます。練習1で書いた「話題カード」は、練習5（教科書 p. 77）でもう一度使います。

- ①まず、POINT 1 のような状況ではどんな話題について話すか、あるいは、学習者の母語ではどのような質問を投げかけておしゃべりが始まるかを考えさせてください。おしゃべりをする相手とは初対面ではありません。

ません。一般的なことに加え、お互いに共通することについて感想を言ったり、進捗状況を聞いたりすることからおしゃべりが始まることを意識させてください。

- ②練習シートを配布し、教科書の「共通すること」を一通り確認します。そして、他にどんな話題があるかをクラス全体で自由に話します。
- ③各自に練習シートに記入させます。
- ④クラスメートとペアかグループになり、お互いに自分が考えたカードの中で自信があるものでおしゃべりを始めてみます。お互いの話題で一通り、受け答えをしたあとで、どのような話題だとそのあとおしゃべりに発展しやすいか、どのような話題だとつまらないか、などについて話しあいます。

【トラブル・シューティング】

学習者は、母語でのおしゃべりの際、どのようなおしゃべりのきっかけを使っているのか、意識したことがありません。日本人と日本語で話すのがやっとなという気持ちの学生は「No idea (アイディアが浮かばない)」などと言うこともあります。そのような場合は、①、②を教室全体でやり、③は宿題にして周りの日本人や留学生に相談して来させることで解決できます。学習者の様子を見ながら工夫してください。

POINT 2 おしゃべりのとき、どんな「あいづち」を使いますか。



POINT 2 の目的は、親しい関係での会話やカジュアルな場面で使うあいづちの種類を増やすことです。

あいづちの機能については、教科書 p. 208 に翻訳付きで説明してあります。また、CD でイントネーションを確認することもできますから、各自で聞いて練習させてください。

練習2 あいづちのあとに、感想を言う練習をしましょう。

- 付属のCDのトラック 10 を使って、実際にあいづちを打つ練習をしてください。
- 以下は、①～④のAの話に対するBのあいづち例です。他のあいづちも可能ですので、教師が紹介してください。

- 例) ① B:「ふ～ん、そうなんだ。」
 ② B:「え? 本当?」
 ③ B:「えー? 信じられない。」
 ④ B:「へえ、よかったね。」

POINT 3 おしゃべりを続けたいとき、どうしますか。



POINT 3 のねらいは、自分から相手に質問を投げかけることでおしゃべりの話題が広がっていくことに気づかせることです。

1 相手にも同じ質問をする

- 教科書で示した例以外に、助詞の「は」や「も」を使った聞き返しについても紹介しておくとい良いでしょう。

〔表現例〕

あなた：「クラスメートと。直美は誰と？」（※教科書 p. 74 の例）
「クラスメートと。直美は？」
「クラスメートと。直美もクラスメートと食べるの？」
「クラスメートと。直美も？」

- 特に初級レベルのうち、自分のほうから質問を考えて相手に聞くことは難しいものです。相手から聞かれた質問に答えつつ、同じことを相手に問い返すことで、話を続けるきっかけを作ることができます。

2 関係する質問をして話題を広げる

教科書に書いてある例以外の関連する質問を考えさせてください。このとき、質問の前に、**POINT 2** で取り上げたあいづちを入れて、自然なやり取りを意識させましょう。

〔表現例〕

あなた「あ、そうなんだ。テニスサークルって、忙しい？」（※教科書 p. 74 の例）
あなた「へえ、そうなんだ。テニスサークルって、何人いるの？」
あなた「ふーん、そう。テニスサークルって、おもしろい？」

練習3 おしゃべりの話題を広げる練習をしましょう。

- 練習3** を始める前に、**2** を使って、教師が学習者に質問し、学習者の答えを発展させる質問を他のクラスメートといっしょに考えるなどの活動を入れてください。この活動で使った質問と答え、それを発展させた質問などを自分で使ってみることで練習になります。
- 練習1** で使った「話題カード」を使うことができます。各自が書いた質問以外に、クラスのみんが考えた話題を一覧にするなどしてください。
- 話題を考えるヒントとして、教師が以下のカテゴリーを板書するのも1つの方法です。ただし、プライバシーに関わる質問に発展しないようにする注意が必要です。
ヒントの例) 家族、宿題、日本の食べ物、趣味
- クラス全体で3分間測って競争するとよいでしょう。おしゃべりを始めるときに全員立って、途中で続かなくなったペアは座らなければいけない、などのゲーム性を加えると盛り上がります。

練習4 「質問力」をつける練習をしましょう。

- 付属 CD-ROM 収録の『れんしゅうシート』に自分に関するニュースを書かせてください。おしゃべりの練習ですので社会で起きた出来事ではなく、身近なことについて考えさせてください。
- 学習者に合わせて、教師がニュースの例を示すことで、学習者がニュースを考えるヒントになります。
- その場ですぐにニュースを思いつかない学習者もいます。学習者によっては宿題にしてもいいでしょう。
- 「本当」または「○」、「うそ」または「×」の札を用意します。わかったところで札を挙げて、当たった人がポイントをもらうなど、ゲームが楽しくなる工夫をしてください。

- ここは「それは、本当ですか」のような質問をすると、練習をすることなく会話が終わってしまいます。あいづちを打ちながら、相手が言っていることが嘘だとわかるような質問をさせることがポイントです。まずは、教師が質問をする役のモデルをやってみせてください。

POINT 4 話題を変えたいとき、どうしますか。



POINT 4 のねらいは、限られた日本語で話題のコントロールをする戦略に気づかせることです。

① 相手が話しているときに、自然に話題を変えたいとき

- ここは、「ところで」や「そういえば」の前に、あいづちを打つことで、自分が発話の権利を持っていることにも注目させてください。
- 「ところで」は、文章を書くときにも話題の転換に使われますが、話すときには「さ」や「ね」を付けることでより自然になることも合わせて紹介するとよいでしょう。これについては、学習者の地域の話し方に合わせて、より自然な表現を教師が紹介するようにしてください。

② 相手が話している途中で、割り込んで話題を変えたいとき

- 会話例では「あのう、ごめんね」などの謝罪表現から始まっていますが、実際には ① と同じように、あいづちのあとに続けて言う方法も紹介してください。
- 自分の母語ではどのように割り込んで話すのかを比較するとよいでしょう。特に、相手が話している間に自分の発話を重ねても失礼にならない文化の学習者は、「謝らないで突然、会話に割り込む」ことを日本語でもしがちです。

練習5 話題を変える練習をしましょう。

- 付属 CD-ROM 収録の『れんしゅうシート』（練習1 で書いた「話題カード」）を使います。
- POINT 2 で取り上げたあいづちを使って、自然なやり取りを意識させてください。教科書に出てくるもの以外のあいづちを紹介してもいいでしょう。
- 教科書には元の話題に戻すときの表現や突然、新しい話題を取り上げる際の表現を紹介していません。練習5 を始める前にいくつか紹介しておくといよいでしょう。

〔表現例〕 「さっきの話だけど、」「突然だけど、」

POINT 5 おしゃべりを終えたいとき、どうしますか。



POINT 5 の目的は、必要に応じて自分からおしゃべりを切り上げる表現を確認することです。

① 2人とも用事があるとき

〔表現例〕

「もうすぐ昼休みが終わるね。そろそろ行こうか。」

「授業が始まる時間だね。そろそろ行こうか。」

「もうこんな時間。そろそろ行かない？」

② あなただけ用事があるとき

〔表現例〕

「ごめんなさい。もう行かないと。」

- 学習者に具体的な友達、場所を思い浮かべさせ、① や ② の状況に合った言い方を考えさせてください。
- ① も ② も学習者のほうからおしゃべりを切り上げる表現を紹介しています。実際には、学習者が ① や ② の直美の立場になることもあります。直美の立場だったらどのように答えるかを他の学習者や教師が答えてみるのもよいでしょう。
- この教材では関東圏の大学に通う学生という設定で、会話例が書いてあります。授業では、学習者の年齢や住んでいる地域に合わせて、学習者が実際に使える表現を紹介してください。